

沼津市公共施設マネジメント計画策定審議会
第2回（平成28年度第1回）審議会

【概要版】

日時：平成28年6月3日（金） 午後3時～午後5時

会場：沼津市庁舎4階 危機管理センター

出席者：6名 ※敬称略 五十音順

加藤 訓久 沼津商工会議所青年部 会長、株式会社勢和警備保障 代表取締役

岸 昭雄 静岡県立大学経営情報学部 講師

榊原 昭雄 沼津市連合自治会 会長

鈴木 素子 鈴木素子税理士事務所 所長

日詰 一幸 静岡大学人文社会科学部 教授

山本 康友 首都大学東京都市環境学部 客員教授

事務局：4名

沼上 義文 沼津市財務部資産活用課 課長

矢嶋竜一朗 沼津市財務部資産活用課 公共施設再配置係長

内 勝一郎 沼津市財務部資産活用課 公共施設再配置係

筑城 浩介 沼津市財務部資産活用課 公共施設再配置係

計画策定支援業者：3名

足立 文 株式会社日本経済研究所公共マネジメント部 部長

小林 純子 株式会社日本経済研究所公共マネジメント部 主任研究員

岩坂 隆朗 株式会社日本経済研究所公共マネジメント部 副主任研究員

傍聴者：0名

<審議会>

1 開会

事務局紹介

計画策定支援業者紹介

新課長より挨拶

前回ご欠席に日詰副会長よりご挨拶

2 議事

議事1 公共施設マネジメント計画の全体像について

- ・目的と背景について、単に国から要請があったから作りますということではなく、沼津市として大きな課題であり、取り組まなければならないという説明がほしい。

議事2 公共施設現況調査結果報告

- ・資料の図表が小さくてよく分からないので、もっと大きくしてほしい。
- ・対象施設の中には、既に廃止が決まっている施設や廃止を検討している施設も含まれているか？
(事務局より、全ての施設を対象としているので、これらの施設も含まれていると回答。)
- ・今後30年間の建物の維持更新費が年間約53億円という説明を受けたが、そもそも同規模のまま建替えることはありえないと思うが。
(事務局より、まずは全ての建物を同規模のまま建替えた場合のフルコストを算出して、今後、このコストをどう縮減させるか議論いただきたいと回答。)
- ・庁舎施設の平均築年数48年はかなり古い、大きな課題だと思う。
- ・指定管理制度2つと包括委託の違いについて説明してほしい。
- ・現在の建物の維持更新費はいくらか？
(事務局より、過去3年間の実績は年間約26億円と回答。)
- ・この試算では大規模改修を築後30年、更新を築後60年と設定しているが、現時点で既にこれらの年数を経過している、いわゆる積み残しはあるか？
(事務局より、前回の審議会でもお示したように計約147億円計上しており、当初10年間で均等割りしていると回答。)
- ・積み残しはグラフ上で読み取れるようにしておくこと。
- ・施設毎に、利用者一人当りの延べ面積や、コスト、利用状況等を示してほしい。
- ・コスト収支は、改修や減価償却相当額を含めたフルコストで比較した方がよい。
- ・インフラ資産は、総数だけでなく、重要度別の数量や維持管理コスト、将来コストの試算結果も提示してほしい。
- ・将来コストについては、建物とインフラを合算した形で提示してほしい。
- ・インフラは総量一覧しか示されていないが、今回、インフラの適正化は考えないということではよいか？
(事務局より、インフラは現在調査中であり、今回お示しできる部分までをまとめた。次回は類型別の方針について議論していただく予定なので、次回までに資料をまとめたかと考えていると回答。)

議事3 市民意向調査結果報告

- ・回収率が約26%で有効な調査と言えるのか？
(他委員より、郵送でやると他市町でも大体この程度の回収率となり、市民の意向を把握する手法としては有効だと思われると意見。)
- ・地区センターは地域コミュニティの拠点施設となっているので、人口が減少しても維持しなければならない施設だと思う。しかし、老朽化が進行している現状もあるので、維持費を捻出するために、有料化した方がいいと思う。
- ・小中一貫校化により空いた建物を、地区センターなどの他用途に使えないか。
- ・他市では、建物を住民へ譲渡してしまい、住民が全て管理運営している例もある。
- ・指定管理施設について、修繕の費用負担や金額区分が分かれば教えてほしい。

議事4 課題の整理と基本方針(案)について

- ・3つの原則(案)が示されているが、ソフト(サービス)を最適化することで、自動的にハードやコストも最適化されるのではないか。個別に切り分けて議論できるものではないと思う。
(事務局より、確かにソフト(サービス)の最適化により、そのサービスを提供するハードの最適化につながる側面はあるが、一方、ハードそのものの質を上げる、使いやすくするといった側面もある。コストについては、ソフト、ハードの最適化による側面だけでなく、余剰資産の売却等による収入確保といった側面もある。表現方法を検討したいと回答。)
- ・インフラの現状が見えないので、次回、インフラも含めて議論したい。
- ・削減の目安の考え方の中で、建物を長寿命化することで維持更新費が年約15%縮減されると試算しているが、本当に縮減されるのか疑問がある。
(事務局より、あくまでマクロ的に把握するための仮の試算であることをご理解いただきたいと回答。)
- ・最適な水準をどこに設定するのか、単純に人口減少に合わせ水準を下げることはできないと思う。
- ・広域連携は、近隣他市町の事情を考慮しつつ調整を図らなければならないので、非常に難しい手法であるが、大事な視点だと思う。